

大阪 需要停滞も海外高支えに強保合い商状

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は強保合い。電炉需要の停滞に加え、炉前在庫も大勢が適正水準を抱えつつも、今後も入荷停滞要因の共同輸出船積みが増えるため、一定量確保に向けて引き合いを緩めにくい展開といえそうだ。同地区電炉のH2実勢値は2万3500～2万4500円、新断バラ同2万6000～2万6500円、鋼ドライ粉バラ同2万～2万500円(一部上値2万1000円)見当で推移している。

地区内では今月生産が11月比で大幅な減少が予定され、需要もこれに合わせて落ち込みが避けにくい状況にある。こうした中、先月末から月替わりにかけて高値筋を中心に計画を上回る入荷レベルに達したほか、足元では岸和田製鋼と中山製鋼所が炉休期間中にあり、在庫水準についても電炉筋の多くが生産対比で余力を

抱えているようだ。先月は電炉側の入荷不安を受け、実勢以上を提示しての引き合いも見られたが、今月は需要自体が11月比で低く、需給的な心配を持ち合わせていないため、「輸出がここから大幅に上昇することはない、年末に近付くにつれて高値修正も行われていくのでは」(電炉購買担当者)との声が聞かれる。

だが、来週以降にも共同輸出船積み(5,200ト)が予定されるなかで、湾岸筋の集荷意欲も高い状態には変わらず、H2以下の入荷については安定化を図りづらい環境にある。トルコ向けもいまだ上昇基調を保ち、これにより、アジアミルも米屑に比べて割安な日本との商談を行っていることで、「上伸力が高いわけではないにせよ、輸出価格や荷動き次第では値上げの可能性が残っている」(ヤード業者筋)と見る向きもある。

近畿工業「2020NEW環境展」にAI搭載の自動選別ロボットなどを展示予定

(兵庫) 破碎機・選別機メーカーの近畿工業(本社=兵庫県神戸市中央区、和田知樹社長)は来年4月22日(水)～4月24日(金)にかけてインテックス大阪で開催される「2020NEW環境展」に向け、人工知能(AI)を搭載した自動選別ロボットなどの開発をすすめている。

「砕く・剪(き)る・選ぶ」技術に強みを持つ同社は今年環境展において、多数のリサイクル機器を出展。その中でも、破碎後のミックスメタルからセンサーで銅と真鍮を認識する自動選別ロボットについては試作段階だったにもかかわらず、将来的な人手不足の観点や鉄・非鉄の混合物である雑品の国内処理に対するニーズの高まりを受け、多数の見学者から高い評価を得ることができたため、そこから研究を重ねながら、AI搭載の自動選別ロボットの開発をすすめており、現在、実用化に向けて選別精度や作業スピードの向上に取り組んでいる。また、来春に完成を予定する新工場「TOMOE FACTORY(トモエファクトリー)」へ破碎機の刃物製作及び使用済み刃物の再生事業を集約す

るほか、新たにレーザー溶接設備を導入し、硬度が高く、破碎性能や耐久性に優れた高品質な刃物を生産するため、こうした同社独自の付加価値の高い刃物を始め、発売開始から30年で2,000台以上の販売実績を持ち、今もお国内トップシェアを誇る二軸剪断式破碎機を展示する予定だ。

同社は1948年に創業。2004年に廃家電製品等の鉄・銅・アルミなどが複合した金属素材を高精度・高効率に成分回収する捻砕技術の開発で文部科学大臣賞、2011年には兵庫県ものづくり技術大賞をそれぞれ受賞した。2015年には業界初となる工業系雑品処理に特化した「スーパーシュレッダー」のほか、2017年に自動車電装用モーター(ワイパーモーターやパワーウィンドウモーターなど)、小型工業用雑品、小型家電、家電4品目、不燃粗大ゴミなど幅広い品目を処理対象物とした「V-BUSTER」の製造も手掛け、昨年から今年に入っでの国内処理ニーズの高まりに合わせて、デモ機見学や受注実績が増加している。

本社
京阪神地区を3工場体制で
東初島 網羅! 枚方

松本産業株式会社

環境マネジメントシステム ISO14001認証取得

-  **本 社 工 場**
 ☎660-0832 尼崎市久々知3丁目23番33号
 ☎(06) 6499-1231番(代)
 -  **東初島営業所**
 ☎660-0832 尼崎市東初島町2番45
 ☎(06) 6489-0101番(代)
 -  **枚方営業所**
 ☎573-0003 枚方市出屋敷西町1丁目21番1号
 ☎(072) 847-3592番
- <http://www.matsumoto-co.jp/>